

西日本 寒波被害

長崎特産 **（ビワ）**、農作物を守れ 田村貴昭衆院議員が農家の声つけ、支援を求める



日本共産党の田村貴昭議員は2月24日の衆院総務委員会で、1月下旬に西日本を中心に襲った強烈な寒波で、農作物が大打撃を受けた問題を取り上げました。

長崎のビワ生産者の声を突きつけ、「農家が栽培再開に踏み切れるよう、国は地元自治体と連携して実効ある支援にあたるべきだ」と求めました。要旨を紹介します。

日本共産党

「産地パワーアップ事業制度」 簡易ビニールハウスの導入に国が2分の1を補助

田村議員は、長崎県特産の露地栽培ビワの被害額が約8億3000万円に上っていることを指摘。4年前の冷害による貸付資金返済中の農家の落胆は大きく、「廃業しかない」との声が上がっている一方、「茂木ビワ」「長崎ビワ」の

【鈴木農水省・生産振興審議官】ビワの寒害防止用の簡易型ハウスの導入に必要な資材費へ支援は可能だ。

【田村議員】ほかの被害に遭った自治体、県でも、この制度を活用して手を挙げる場合、その県も、あるいは市町村などが上乗せで簡易ハウスの補助をしたいという場合に、これは制度上可能か。

【鈴木審議官】地方公共団体の判断で可能だ。



ビワ農家から話を聞く、田村貴昭衆院議員と原口敏彦長崎参院選挙区予定候補、堀江ひとみ県議、内田隆英市議、2月11日、長崎市

ワ栽培支援に使えるかどうか質問しました。

ブランドを守るろうと生産者や自治体、農協などが全力を尽くしていることを紹介しました。

そして、農水省が新設した「大雪等被害産地営農再開支援対策」の、「産地パワーアップ事業制度」がビ



長崎県のビワは全国で3割以上のシェアを占める特産品。写真は、寒波で凍死したビワ（上）と無事だったビワ（下）の断面。ビワの幼果は零下3度の状態が五時間続くと、80%が凍死するとされています。

枯れた作物の撤去、種苗や肥料などの支援も検討（農水省）

「雪害対応産地再生緊急支援事業」についても質問。鹿児島県では、ソラマメやスナップエンドウなど10億円超の被害が出ているながら補償が受けられない現状をあげ、効果的な支援を求めました。

ママなどを片づける経費、果樹を剪定をして次に備えるのに必要な経費、次の作物の種苗や肥料といったものを共同購入するときの経費を支援する。

【田村議員】この制度において今後農家が次の生産再開に向けて期待が持てる支援か。

【田村議員】ソラマメなどは共済の品目になくて補償が得られないところも。農家が栽培再開に踏み切れるように、政府は自治体としっかり連携して実効ある対策を進めていただきたい。

【鈴木審議官】被害を受けたバレイシヨやソラ